

～小学校：生活編～

教科目標等	<p>教科目標・授業時数は現行どおり ～活動や体験の一層の充実～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接体験の重視...低学年児童は、具体的な活動や体験を通して思考する特徴がある。 ・生活者の視点...身の回りの事象、対象を一体的・全体的にとらえ、生活者の目で考えることが求められている。 ・生活上必要な習慣や技能の獲得...人や社会、自然にかかわる学習活動の過程で習得。 <p><教科目標></p> <p>具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。</p> <p><授業時数></p> <p>1年...102時間 2年...105時間</p>								
学年の目標 内容等の改善	<p>学年の目標(1・2年共通)が、3から4に ～「自分自身に関する目標」が加わる～</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分と人や社会とのかかわり ...「地域のよさに気付き」(追加) 自分と自然とのかかわり ...「自然のすばらしさに気付き」(追加) 自分自身に関するもの(新設) ...「自分のよさや可能性に気付き」(追加) 生活科特有の学び方に関するもの <hr/> <p>内容項目が9つに</p> <table border="0" style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td>学校と生活</td> <td>家庭と生活</td> <td>地域と生活</td> <td>公共物や公共施設の利用</td> </tr> <tr> <td>季節の変化と生活</td> <td>自然や物を使った遊び</td> <td>動植物の飼育・栽培</td> <td>自分の成長</td> </tr> </table> <p>生活や出来事の交流(新設) ...活動や体験をその場で終わらせない。言語活動の充実、人との関わりの重視、交流による学習の深まり</p> <hr/> <p>気付きの明確化と気付きを質的に高める活動や体験を一層充実する学習活動の重視</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動の充実...子どもの思いにそった活動、繰り返しの活動、ふり返り活動(絵・文・言葉等で表現)、交流活動(発表会で終わらせず、思考を伴うものにする教師の声かけ等が大切) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align:center;"> <p>気付いたことを基にして考えさせるので、見つける・くらべる・たとえる等の活動を取り入れる</p> </div> <p>言語力の育成・活用の重視 伝え合い交流する活動の充実</p> <p>自然の不思議さや面白さを実感する指導の充実...学年目標(1)に「安全で適切な行動」</p> <p>安全指導や生命に関する教育の充実...継続的な飼育・栽培</p> <p>幼児教育及び他教科との接続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年入学当初の配慮...生活科を中心とした合科的な指導を行うなどの工夫 ・表現や活動...国語、音楽、図画工作など他教科との関連を積極的に図る ・3年生以降の社会科・理科との接続 <p>内容(3)「地域と生活」で、地域で働いている人を対象とすること</p> <p>内容(4)「公共物や公共施設の利用」で、公共物や公共施設を利用すること</p> <p>内容(5)「自然や物を使った遊び」では、自然の不思議さに気付くこと</p> <hr/> <p>表現する活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な体験活動を通して気付いたことをもとに考える ・直接働きかける活動と表現する活動を関連させて取り扱う <p>思いや願いを自己表出すること、表現によって思考を深めることの両面があることを明確にし、「考える」ことを強調</p>	学校と生活	家庭と生活	地域と生活	公共物や公共施設の利用	季節の変化と生活	自然や物を使った遊び	動植物の飼育・栽培	自分の成長
学校と生活	家庭と生活	地域と生活	公共物や公共施設の利用						
季節の変化と生活	自然や物を使った遊び	動植物の飼育・栽培	自分の成長						

<指導・支援の場面で>

体験だけで終わらせず、気付きを質的に高める工夫が必要。

...絵・文・言葉、動作、劇化などの表現と、気付きを質的に高める教員の声かけ等

表現の出来映えのみを目指すのではなく、表現によって体験を振り返らせる

...言葉や絵、動作、劇化などの方法で表現

自然事象とのかかわりを十分に確保

...自然の観察、自然や身の回りのものを使った遊び、例えば、紙やひも、袋や缶、ペットボトルなどの多様な素材を使って、様々な動きのおもちゃを工夫して作って遊ぶ活動、水に物を溶かして遊ぶ活動、風の力を使って遊ぶ活動など、また、単発ではなく継続的な飼育や栽培活動を

安全...通学路の様子だけでなく、そこでの安全を守ってくれる人々にも関心をもつ。